

GiGS presents 完全弦交換マニュアル

その1：STスタイル編

こちらでは弦の交換法を伝授！まずはSTスタイルのギターに一般的に採用されているクルーソン・タイプのペグ&ピンテージ・タイプのトレモロを搭載したギターの弦交換方法です。TLスタイル等の場合も基本的に同じですので、参照してみてください。

Text / TATS OHISA



1. ひとつに弦と言ってもたくさん種類がありますが、どれを選ぶかは好みでしかありません。好みの音やタッチに出会うまでいろいろ試してみてください。



2. 交換に必要なモノは新しい弦セットとニッパー。基本的にこれだけ。交換後の微調整のために六角レンチやドライバーもがあるとベター。



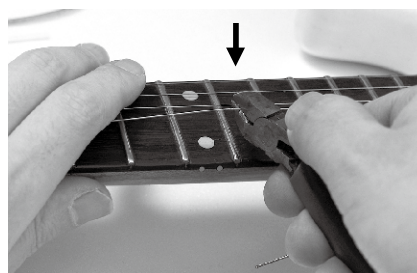
3. 上の黒いL字の道具は、通称“アルトベンリ”という名の便利グッズ。楽器屋さんで数百円で購入可能。使い方は後ほど詳しく紹介します。



4. 多くのSTスタイルに使用されているクルーソン・タイプのペグ。操作する部分が一列／一方向に揃っているのが特徴ですね。



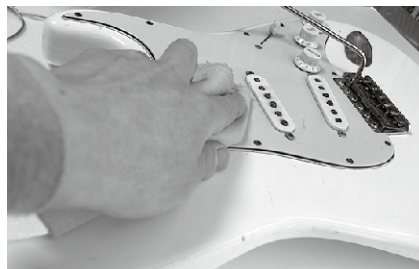
5. これも多くのSTスタイルで採用されているピンテージ・タイプのトレモロ。アーミングもできて、サステインも増加、という高機能な部品。



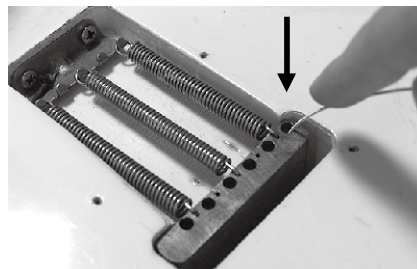
6. ではいきましょう。まず古い弦を全部ダラダラに緩めてください。それからニッパーで切ります。捨てる手間を考慮して12f辺りで切ります。



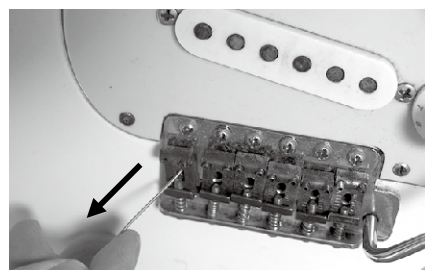
7. 外した弦は必ず全部まとめて袋に入れること。放置弦はとても危険です。目に入ったたりすりやすぐ失明です。撮影中、俺も流血しちゃったぜ。



8. たまったホコリは音にも影響しますので、日頃手の届かない部分はこの際に清掃。弦を全部外すチャンスってそんなにないですからね。



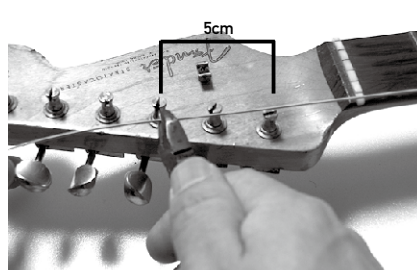
9. ボディーの裏から新弦を装着。今回は6弦(一番太い弦)から。6弦は裏の一番右の穴から挿入。ボディー表側からニュッと出るまで差し込んでね。



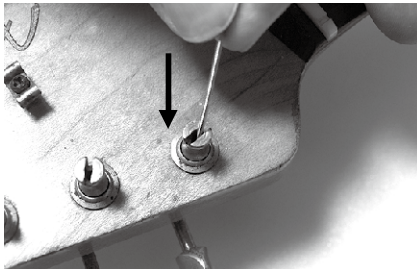
10. 当然ですが、6弦はボディー表の一番左から出てきます。ボールエンド(弦の終端)が引っかかるまで、この弦を引っ張り出してください。



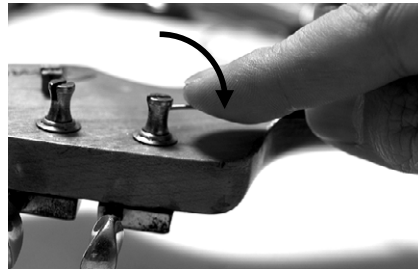
11. 次はその弦の先端部分をヘッドの方向まで持っていきます。このとき、変に弦を折り曲げたりしないように注意してください。



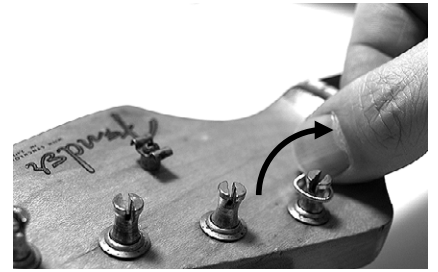
12. この段階で弦をちょうどいい長さにカット。目安は差し込むペグからさらに5cmほど先です。長すぎても意味がないのでホドホドに。



13. ベグを真上から見ると真ん中に穴があるので、ここに弦を差し込みます。(弦を通すタイプのベグへの巻きつけ方は次項を参照)



14. そこでベグの上に掘ってある溝に合わせて弦を90度折り曲げます。この時点で弦はどこにも固定されていないので、手は放しちゃうダメ。



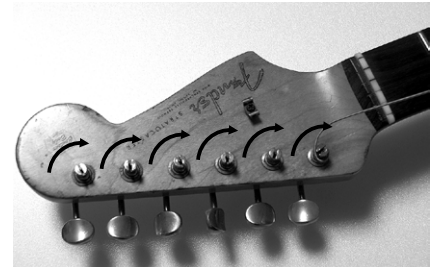
15. その折り曲げた弦を持ち、ベグのポスト(支柱)の周りをグルッと時計回りに1周させて巻き付けます。上から見て「時計回り」ですよ。



16. あとはベグの力で巻きます。このとき手を放すと弦がスポンと飛んでいくので要注意。左手で弦を押さえて、右手でベグをクルクル。



17. 全部を指でクルクルとやり続けるのは単純労働なので飽きます。全部で6本あるし…。そんなときがあると便利なのが“アルトベンリ”。



18. コレを使うとベグを巻くのが一気にスピードアップできます。さて、STスタイルの場合は弦を巻く向きが全弦同方向となります。



19. これは巻き終わった6弦のベグ部分を16.の写真とは反対側から見たもの。こんな風になっていればOKです。残りの5本も同様に。



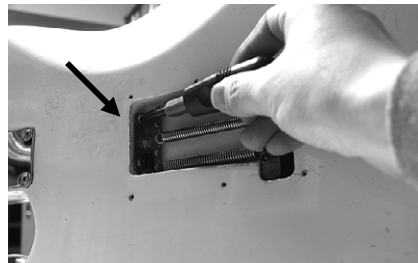
20. 弦によってはストリング・ガイドを通過させる必要がありますが、全部の弦をある程度巻いた後で、指でギュッと押し込んでやればOK。



21. 全部の弦が正確にナットの溝の上に乗っているか確認。弦の太さを大幅に変更する場合、ナット溝を再調整する必要があります。



22. ここからは弦交換後に必須の調整。まず1度全弦のチューニングをしてください。その後、ブリッジがどのくらい浮いているかを確認。



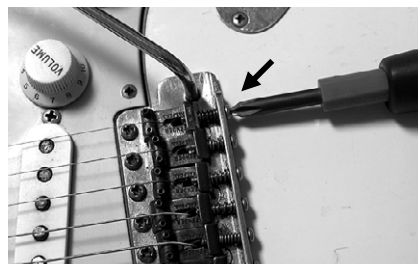
23. ここをどのくらい浮かせるかは好きですが、好きな具合になるようにボディ裏面にあるこの部分のネジ(2本)を回して調節。



24. ネジを締めればブリッジはボディにくっついていきます。逆に緩めれば浮きます(浮いていなければアーム・アップはできません)。



25. それから弦高のチェック。調整はブリッジ上に並んでいる駒(サドル)にある六角レンチを回してお好みの高さになるように調整します。



26. 最後にオクターブ・チューニング。サドルを動かす場合このネジを回します。基本的に同じゲージならそれほど変更しなくていいはず。



fin. チューニングはバッチリ合うまで延々と繰り返してください。完了したとき、ギターへの愛着も倍以上になっていること間違いナシ。

GiGS presents 完全弦交換マニュアル

その2：LPスタイル編

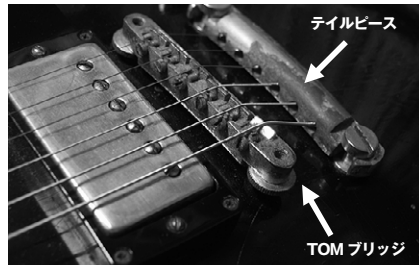
続いては、LPスタイルのギターに一般的に採用されているグローバー・ロトマチック系ベグ&TUNE-O-MATICブリッジを搭載したギターの弦交換方法を紹介。SGスタイル等の場合も基本的に同じですので、参考してみてください。



1. 写真はグローバー・ベグを搭載したギブソン製レスポール・カスタム。クルーソン・タイプに比べ、ひと周り大きな形状で、重量もあります。



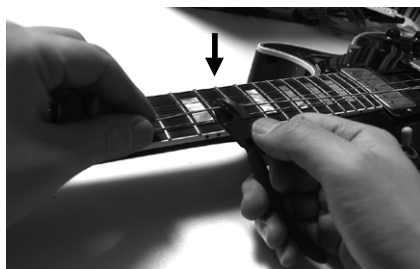
2. LPスタイルのベグは3：3で左右対称に配置されているのが特徴。このツマミはその形からキドニー(豆型)ベグという愛称で呼ばれます。



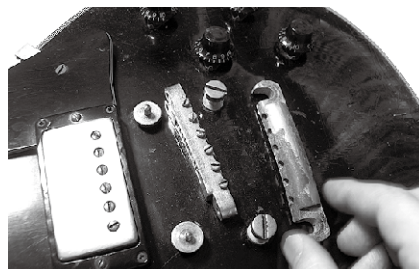
3. 通称“TUNE-O-MATIC”（略してTOMとも）ブリッジと、ストップ・テイルピース。共に現在のLPスタイルの基本的なパーツですね。



4. LPスタイルはヘッドに角度がついているため、床や机にギターを寝かせて作業できません。上の写真のようにヘッド部を浮かせる配慮が必要。



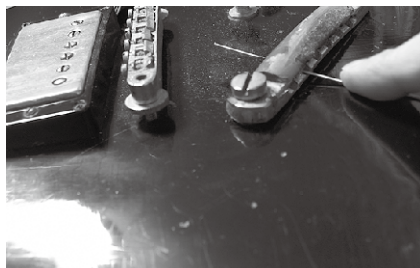
5. ではまず古い弦をニッパーで切ります。捨てる手間を考慮して12f辺りの場所で切ります。危険なのでこのように両手を添えてください。



6. LPスタイルは弦を外すとブリッジやテイルピースがご覧のように外れてしまいます。これらは弦の張力のみで固定されているからです。



7. ピックアップの間やブリッジの周り、ピックガード下などが、LPスタイルはすぐホコリだらけになります(笑)。この際に清掃しましょうね。



8. ブリッジ/テイルピースを元の位置に戻し、新弦をテイルピースの後ろの穴から入れます。その後ブリッジのサドル上を通過させます。



9. 弦の先端をヘッドまで持っていき、ここでちょうどいい長さにニッパーで切ります。カットする場所は目安としてベグからさらに5cm先。



10. ハイ、切りました。確認ですが、上の写真では5弦(Aの弦)を交換しています。それからカットした弦はちゃんとゴミ処理してね。



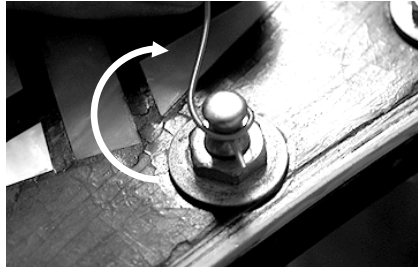
11. 今度はその弦の先端から1~1.5cm程の場所でクイツと90度に折り曲げます。折りすぎて弦を切らないように注意してください。



12. 折り曲げた先をベグの横穴に差し込みます。それから次にベグに1周だけ巻きつけるのですが、ここがポイントですよ。



13. まず半周だけ、この最初の周回「だけ」を上に向かって巻きつけます。こうすることで結果的に弦が穴から抜けにくくなるんです。



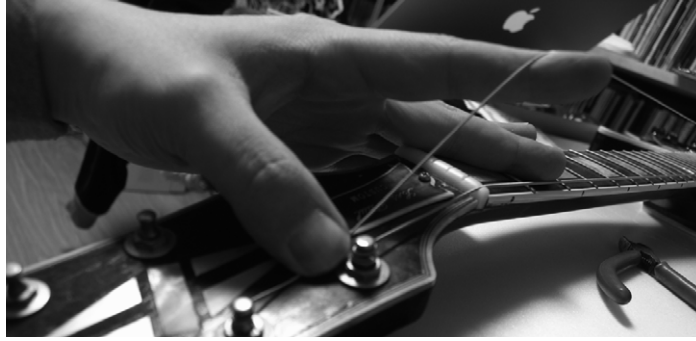
14. 別角度でのドアップ写真。「上に向かって」の「上」というのは写真の上の方向を指します。これ以降は、「下に向かって」巻いていきます。



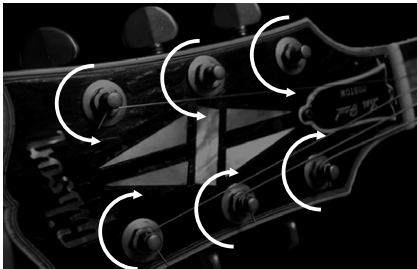
15. 「最初の周は上へ、2周目からは下へ」と巻いていった弦は、最終的にペグのポストにこんな風に巻かれることになります。



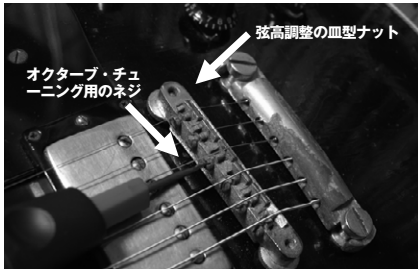
16. ベグを巻くときは指でもいいんですが、やっぱり「アイトベンリ」があると便利。さて、ここで注目なのはポストに巻きついた弦の方。



17. 左写真での左手の指使いに注目。親指で弦を押さえつつ(こうすることで巻きつける弦は下向きに押さえつけられます)、人差し指で弦が折れないように真っすぐにキープしているワケです。面倒くさそうですが、慣れると結構すぐにできます。



18. 3:3のベグは、1~3弦と4~6弦で巻く方向が逆になりますので、途中で混乱しないよう回転方向を上の写真で確認してください。



19. 最後にオクターブ・チューニングを確認。サドルを動かす場合はこのネジを回します。弦高はお皿型のナットで上げ下げします。



fin. チューニングはもちろん全部が完璧に合うまで延々と繰り返してください。また、当然ですが弦は「全部一度に」交換してくださいね!

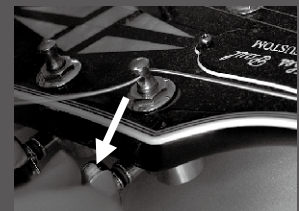
**弦交換・特別編：ちょっとこだわりの弦の巻き方
これが「マーティン巻き」だ!**



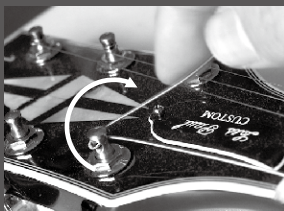
弦の巻き方で結構種類があるんです。ここでは有名な「マーティン巻き」と呼ばれる方法をご紹介します。これはアコギの老舗マーティン社が昔ギターの出荷時に採用していた巻き方なんです。実は「簡単」「狂いが少ない」等の理由でアコギのみならずエレキでもこの巻き方をする人が結構多いです。慣れれば簡単ですので、是非お試しあれ。



1. ポストの穴に弦を通します。弦はブリッジから「真っすぐ」に引っ張るようにしてください。あんまりガッチリ引っ張る必要はないですが。



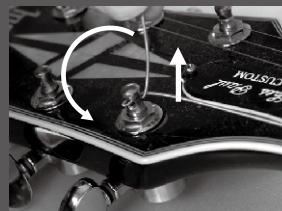
2. 続いて、その状態のまま、弦を通したポストの穴が横90度を向くようになるまでベグを回します。写真の矢印は、穴の方向を指しています。



3. 今度は弦の先を時計回りにポストに巻きつけます。通常の巻き方とは反対方向にポストに巻きつけるわけですね。写真を参照願います。



4. 次はその弦の先をナット~ポスト間に延びている弦の「下」をくぐらせます。なお、まだ弦は切っていないので弦先には注意してください。



5. 次にその弦の先をグイッと上を持ち上げてから、先程とは逆の方向＝反時計回りに弦を半周巻きつけます(写真の矢印の方向へ)。



6. これで終わり。あとは余分をカットするだけ。なお、今回は6弦で紹介していますが、1~3弦の場合はもちろんすべて回転が逆になります。